

第4回
西脇市立学校学習環境規模
適正化検討会議

会議録

令和3年3月26日

西 脇 市

第4回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議 会議録

1 開催日時

令和3年3月26日（金） 午後7時～午後8時45分

2 開催場所

西脇市民会館 中ホール

3 出席委員

- (1) 當山 清実 委員
- (2) 川上 泰彦 委員
- (3) 齋藤 周藏 委員
- (4) 藤原 敏伸 委員
- (5) 高瀬 克義 委員
- (6) 藤原 悟 委員
- (7) 稲垣 光繁 委員
- (8) 内橋 智史 委員
- (9) 大隅 麻子 委員
- (10) 松田 一郎 委員
- (11) 竹内 誠 委員
- (12) 山本 義尚 委員
- (13) 白川 智喜 委員
- (14) 石田 君枝 委員
- (15) 佐伯 千裕 委員
- (16) 内橋 孝太 委員
- (17) 遠藤 憂子 委員

4 欠席委員

- (1) 藤原 慎也 委員
- (2) 前田 里美 委員
- (3) 横山 賀大 委員

5 会議録署名委員

- (1) 藤原 敏伸 委員
- (2) 石田 君枝 委員

6 傍聴者

5人

7 説明のため出席した者の職氏名

- | | |
|--|-------|
| (1) 教育長 | 笹倉 邦好 |
| (2) 教育委員会参事 | 遠藤 一博 |
| (3) 学習環境規模適正化推進担当次長兼教育総務課長兼学習環境規模
適正化推進室長 | 高橋 芳文 |
| (4) 学校教育課長兼学習環境規模適正化推進室主幹 | 永井 寿幸 |
| (5) 学校教育課学校教育担当主幹兼教育研究室長 | 衣川 正昭 |
| (6) 教育総務課学習環境規模適正化推進室主査 | 中根 伸也 |
| (7) 教育総務課学習環境規模適正化推進室職員 | 山口 大輔 |

8 会議の概要

- (1) 開会
- (2) 教育長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 協議

＜学校学習環境の捉え方Ⅲ：適切な家庭・地域との連携・協働＞

ア 第3回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議録の承認について

イ 前回会議の意見整理について

ウ 新たな教育推進に係る家庭・地域との連携・協働について

(ア) 学校現場からの報告（学校代表 説明）

（学校から見た家庭・地域との連携・協働）

(イ) 地域とともにある学校づくり（事務局 説明）

（コミュニティ・スクール＜学校運営協議会制度＞）

エ 意見交換・報告

【協議テーマ】

(ア) 家庭から見た、家庭と学校との適切な連携について（学校の役割
・家庭の役割）

(イ) 地域から見た、地域と学校との適切な連携について（学校の役割
・地域の役割）

- (5) 第4回検討会議の整理
- (6) その他
- (7) 事務連絡
- (8) 閉会

○ 事務局
開会

○ 事務局
開会に際し、西脇市教育長があいさつを申し上げます。

○ 教育長

夜分遅い中、お集まりいただきありがとうございます。2月19日に開催を予定しておりました本会議ではありますが、コロナ感染が拡大した関係で延期となり、本日の開催となりました。皆さんにはご迷惑をお掛けするとともに、ご心配をおかけしました。緊急事態宣言の解除がなされましたが、昨今の感染者数を見ても、増えている状況も見られる中で、収束に向かうのは難しいのかなという状況でもあります。まだまだ国内外ともに、また県内でもそうですが、感染者が増えているような状況も見られますので、まだ警戒する必要があるかと思えます。

さて、学校ではご存じのように「GIGAスクール」の展開ということで、本市につきましても11月には、一人一台の情報端末を与えて新しい教育方法を模索していくというような時代に入りました。この時代をスタートとしてこれからどんな形になっていくのか、私は学びと指導の両面の形が変わっていくような勢いがあるというように見ております。時代は確実に変わって思っています。これに対応しなければならないのですが、今も考えているような状況です。

加えて、少子化がなかなか止まりません。本市におきましても少子高齢化がどんどん進んでおります。直近のデータを見ますと、12月末までの0歳児の数が147人とあり、今の状況であれば180人台で止まってしまうのではないかと危惧しております。今後さらに本市につきましても、こういう状態が進んでいくのではないかとというような感じがいたします。西脇市が地域の力を保ちつつ、どんな形で生き残っていくのかということも重ねて考えなければいけないと私は思っております。まちの形に沿った新たな学校の姿・形も考えていかねばならないというような気もいたします。

また、国におきましては、先般の新聞報道を見ますと、昨年度の子どもの出生が90万人を割れたというような記事が出ておりました。日本国を挙げて少子化に進んでいるというような見出しも出ており、非常に先行きが不安です。国の力とは人口だといわれる学者さんもおられますので、そういったところで大きな影響が出てきているように思います。

子どもたちがこれから、20年後30年後をどのような形で国を背負ってい

ってくれるのか、どんな教育をすれば良いのか、どういう状態やどういう環境の下で教育をしていかなければならないのか、さまざまなことを今考えているようなところでございます。切磋琢磨する子どもたちが、どのように充実した教育を得て、人間として必要な基礎基本を身につけていくのかについて、さまざまな視点から問い直していかねばならないのではないかと考えております。

その中で、一番良い西脇市独自の解を見出していただくことを、この会議の皆さんに私たちは期待しております。皆さんが今まで協議されました中身を一つずつ読ませていただくと、子どもたちの学習環境規模適正化の推進はどのように進んでいくのか、非常に期待しております。きっと良い解を見せていただけるものと期待しております。

来年度からは、今年度4回の検討協議の内容を踏まえさせていただき、私どもなりの一つの案をお示しできたら良いなと考えております。令和3年度に答申をいただくことになっておりますが、そのための皆さんのご審議をよろしくお願ひしたいと思っております。

本日は大きく協議次第が4点あります。短い時間ではございますが、どうぞよろしくご審議をいただき、次のステップに歩めますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

○ 事務局

続きまして、次第3「会長あいさつ」に移ります。

○ 会長

————— [会長あいさつ…記述省略] —————

○ 事務局

本日の会議の成立について報告します。委員20人のうち、本日の出席委員は17人となっており、出席委員が委員の過半数ですので、西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議条例第7条第2項の規定により、会議が成立していますことを報告します。

○ 事務局

次第4からの議事は、会長に進行していただきます。

○ 会長

本会議は、第1回会議で承認したとおり公開とします。

- 会長
本日の傍聴希望者数を事務局から報告願います。
- 事務局
本日の傍聴希望者は、5人です。
- 会長
事務局から、本日の傍聴希望者は5人との報告がありました。傍聴要綱で定める定員以下のため、5人全員に傍聴を許可します。
- 会長
次第4—(1)「第3回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議録の承認について」、事務局から説明願います。

————— [事務局説明…記述省略] —————

- 会長
会議録の修正、承認について、委員の意見等はありませんので、第3回検討会議の会議録は承認いただいたものとし、事務局において公開に向けた準備を進めることとします。公開する会議録は、発言について委員を特定しないものであり、委員の署名をもって、確定したものとさせていただきます。
- 会長
続きまして、次第4—(2)「前回会議の意見整理について」、事務局から説明願います。
- 事務局（遠藤参事）
第3回検討会議において、委員の皆様にご意見交換を行っていただきました。そのテーマは資料3にありますように、2つありました。1つ目は「望ましい学習生活集団規模について」、2つ目には、「望ましい指導体制について」というテーマで、意見交換を行っていただきました。
その中でいろいろなご意見が出たわけではありますが、各グループからの報告で出ましたことの確認をいただきたいと思えます。

まず1点目に、これからの考え方のスタンスとしまして、子どもの学びの質を確保することを希望するというご意見が出ておりました。また、別の視点として、子どもの数の減少という課題があります。こちらは本市の大きなテーマであります。どの地域にも今後生じてくるような状況です。特定の地域だけの問題ではないので、市全体を俯瞰した答申になるよう考える必要があるというご意見がありました。それから、特定の地域若しくは地元という観点から一旦離れて、純粋に子どもたちへの教育的なニーズや理想というものをしっかりと追求し検討することが大事ではないかというご意見をいただいたと記憶しております。

2点目に教育効果という面として、学級規模が小さくなるということは、きめ細やか教育が可能というようなご意見も出ておりましたが、いろんな面での教育活動の効果というものを考えますと、学級規模が小さいことが必ずしもプラス面の効果を生じるということではないというご意見がありました。また、極端に子どもの数が減少すると、デメリットも拡大していくのではないかとご意見がありました。子どもの減少が学級数の減少を、そして教員の減少を招くということで、指導体制にも及んでいるという課題が指摘されたと思います。

3点目に学級学校規模に関する点で、教科担任制という国が進める新しい教科の専門性に熟した先生による指導体制というものを拡大していくという方向付けがなされました。やはり学級の数が多いと教員数の確保がないと円滑な推進効果が得られないというご意見がありました。また、具体的な数字を出していただいたグループもありましたが、15人から25人前後の人数で複数の学級があるという状態が良いのではないかとご意見も出ておりました。また、教職員の負担についてのご意見もありました。子どもの学びの質の確保は、教員が職務に関する研鑽を積める指導体制とも関係することではないという意見で、教職員の負担の偏りが生じるような規模というものは適正ではないというご意見もありました。

視点の整理ということで、こういったご意見をいただいたことの確認をいただき、第4回検討会議意見整理として留めて良いかどうか、ご意見をよろしく申し上げます。

○ 会長

ただいまご報告いただきました前回会議の意見整理について、委員の皆様のご意見を申し上げます。

○ 会長

意見等はないようですので、概ね意見が集約されているということでご了承いただいたものとします。続きまして、次第4—(3)「新たな教育推進に係る家庭・地域との連携・協働について」に移ります。まず、学校現場からの報告を学校関係者代表委員よりお願いします。

○ 学校関係者代表委員

私は小学校に勤めておりますので、小学校の立場からお話をさせていただきます。資料4に学校と地域家庭の繋がりについて、現在学校と家庭が繋がっている事例、これから改善を求めたい点、強化したい点の3点について挙がっております。特に小学校においては、生活科や3年生の環境体験学習等で、どこの学校も農園等の作業が多い関係で、作物栽培を中心に、農園の維持や工作等で、どの学校も地域の方にお手伝いいただいております。

他にも体験学習という点で、家庭科・福祉教育を中心に、いろいろな体験学習が主に地域の方に、協力をいただいているところで、本当に大きく支えていただいている部分になります。

もう1点、子どもたちの生活面としては、朝の集団登校時の見守り活動についてはどの地区においても、子どもたちの安全を確保していただきながら校門まで引率いただいています。また、登校時刻に遅れている子どもがいましたら、わざわざ付いて学校まで来ていただいたり、来てない子どもがいれば、お家まで声をかけに行っていたりする方もいらっしゃるし、そういった方々のおかげで子どもたちの朝のスタートが切れています。また、PTAのお立場の点で、通学路上に立っていただいている方々もたくさんいらっしゃいますので、登校時の支援は小学校にとって大きな支えとなっています。

今後の課題としましては、一つが下校時の見守り活動です。朝の見守り活動ほど支援の厚みがないということです。これに関しては、子どもたちの下校時間が違うということもありますし、そのあたりの連携もできるだけ話をしながら行っているわけですが、もう少し詰めていければ良いかということを感じております。

そしてもう一つが、地域の方々と学校との間に、話し合う機会がそれほどないということです。校長レベルでの話し合いの場はありますが、職員レベルでは少ないということです。学校の先生も、地域の学校に勤務している以上は、その地域の一員として地域のことを知ってほしいと私は思います。そういった機会が、今から必要になってくるのではないかなと考えています。小学校からの報告は以上です。

○ 学校関係者代表委員

続きまして、中学校から報告させていただきます。まず1番目の学習面では、中学校はやはりトライアル・ウィークで多くの事業者や地域の方にお世話になっています。2番目の安全・防災面につきましては、保護者の方々による朝の立ち番や、夏祭りの補導でお世話になっているところがあるかと思えます。環境整備やその他については、小学校と同じですので割愛します。

課題についてですが、一つは生徒数が減少し学級委員の選出が難しくなっている点があると思えます。生徒数の減少で家庭数も当然減少しますので、PTAの組織も小さくならざるを得ません。本校の場合も、六つの専門部会を四つに統合を行ったり、役員を16名から12名に削減を行ったりというような形で縮小しております。そうすると反対に、保護者への負担が大きくなるのも事実です。また、電話等の対応についてですが、すでに県立高等学校では、勤務時間終了後は留守番電話対応になっているところがございます。小中学校におきましても、そういったことを検討されているかと思えますが、ただ、保護者も勤務をされている関係上、どうしても時間の都合がつかないところもあります。そのあたりをどう合わせていくのかというところが課題になるかと思えます。あわせて、家庭訪問や個別懇談の時間帯にしても、同様の検討が必要になってくるかなと思えます。

もう一つの課題は、インターネットによるトラブルについてです。閉鎖空間の中でのトラブルであり、学校側の把握がなかなか難しいというところがあり、家庭との連携が必ず必要になってくるというところではあります。連携強化という点にも繋がってくるのですが、「GIGAスクール構想」により一人一台のタブレットが渡されますと、その活用について家庭のルール作りも大切になってきます。また、会長のお話にもありましたが、部活動につきましても、スポーツや文化活動の得意な者と不得意な者が教師の中におりますので、部活動指導補助員等による支援やその活用を含め、ますます地域との連携も必要になってくるように思います。

最後に、教員の地域の行事への参加が負担になるという面もあるとは思いますが、本校の場合では、吹奏楽部の演奏を地域から依頼していただいているところがあり、地域に練習成果を披露できる機会でもあるということで双方にメリットがある部分でもございます。西脇市におきましては、地域の皆さんの学校への関心も高く、温かく見守っていただいている状況であると感じております。

○ 会長

ありがとうございました。続きまして、地域とともにある学校づくりと
いうことで、事務局より説明願います。

————— [事務局説明…記述省略] —————
————— [質問・意見なし] —————

○ 会長

続きまして、次第4—(4)「意見交換・報告」に移ります。事務局より説
明願います。

————— [事務局説明…記述省略] —————

○ 会長

各グループに分かれて意見交換をお願いします。

————— [意見交換…記述省略] —————

○ 事務局

それでは、Aグループから順番に発表をお願いいたします。

○ Aグループ

地域と学校のこれからの連携・協働の在り方や繋がりについて議論した
中で、地域には地域の事情がありますし、いろいろなことが決まりまし
ても、協力してもらえる方とそうでない方がいたりして、取りまとめをする
地域の人たちも大変な思いをすることもあり、いろいろと困ったことがあ
るという話をしました。そして最終的には、学校と地域とがお話しがで
きような機会が欲しいということになりました。

ただ、決まった時間に決まった場所で行うような会議ではなく、例えば、
学校が何か協力してほしいことがあるときに、地域の決まった場所へ行け
ば伝えることができ、また、日常的にその場所に行けば、気兼ねなくお話
しができるような、地域と情報交換ができる拠点があれば、いろいろな意
味で地域と学校が繋がることができ、まちづくりや学校の教育活動に地域
が参画できるようになり、連携が取れるのではないのかと思います。そう
いった集まって話し合える場所ができないものかというところで、話は終
わりました。

○ Bグループ

話した内容は大きく3点ありました。まず1点目は、PTAの活動についてです。PTAの活動をやらせてもらったことで、子どもの学校での様子や、学校の動きを勉強できました。恐らく、PTAの活動をやっていなければ何も知らぬまま終わったのだらうと思います。そういった意味で、PTA活動の重要性を感じましたし、保護者の立場としては、学校との関わりという面において必要ではないかと思います。

2点目に、宿題やゲームのルール作り等について、保護者が無頓着になりすぎているのではないかと思うことです。宿題を学校任せにしていないかということや、ゲームのルール作りということは、本来学校がとやかく言うべき内容ではなく、保護者が積極的に子どもに指導する問題なのに、今や学校が「スマートフォンの利用は21時までにしませう。」というように決めないといけなくなっているところは、非常に情けない話だと感じます。それを、先ほどAグループで話が出たような地域と学校が話をする場で、適切な学校と保護者の役割分担について、本音で話し合えば良いのかなと思います。学校の先生方からすると、正直、何故学校がゲームのルール作りを決めなければいけないのかと思っておられる部分もあると思います。しかし、それを言うことができないと思うので、そういったことを本音で話し合えるような場を誰かがコーディネートして、用意する必要があるように思います。そうすることで、本来の学校と家庭の関わり方が見えてくるのではないかと思います。

3点目に、例えば西脇小学校では、PTAとは別に「おやじの会」という非常に緩い活動があります。その活動は、PTAのOBが始められた活動ですが、イベント等を行いながら、学校と保護者がPTAとは違った面で繋がりを持とうと活動しています。私も一応メンバーの一員であり、かなり緩く付き合いをさせていただいています。それぞれの保護者が孤立することなく、参加したいと思う人が参加できるような場がPTAとは別にあれば、その活動に生きがいを見出せることもあるのかなと思います。また、PTAとは別のところで新たなチャンネルができ、良いのではないかという話ができました。

○ Cグループ

家庭から見た家庭と学校の適切な連携についてということで、話をさせていただきました。いくつか論点がまとまった部分がありましたので、ご説明いたします。

まず全体としては、連携ということですが、やはりもっとコミュニケー

ションをとっていききたいという話が多かったです。先生と家庭、親と子どもとそれぞれもっとコミュニケーションをとっていききたいというのが全体的な意見かと思えます。その中でコミュニケーションを取る方法についてなのですが、今ある学級通信や紙媒体を使ったプリントでの連絡といったものが、非常に役立っている部分もあるという声が上がっていました。

ただ一方で、紙媒体になるので作るのが非常に大変であるとか、やりとりをするにあたって書きすぎると返事に膨大な時間もかかるということなので、双方向のコミュニケーションには適していないのではないかという意見もありました。双方向のコミュニケーションを補うものとして、今後タブレットが導入されていきますので、チャットやLINEで気軽にやりとりができるようになるのではという期待の声が上がっていました。ただ、インターネットに関する環境のこともありますので、ネットリテラシーという点で、インターネットで便利にできることと、やってはいけないこと、誹謗中傷等については、保護者も先生も、今後の共通認識として、学習をしていくべきであるという意見も出ております。

また、コミュニケーションを取りたい内容としましては、子どもが学校でどのように過ごしているかということや、子どもと先生との関係や他の子どもとの関係は良いのか等の数字では見えてこない部分の情報がほしいという声がありました。学校の様子を気軽に知るツールとしてタブレットを使いたいといった声も挙がっています。

次に連絡を取りたい内容として、学校の行事や防災無線で連絡が入るような内容も、タブレット等を活用して連絡が取れば良いのではという意見も挙がっていました。コミュニケーションを取るという部分で、保護者と先生とのコミュニケーションをとっていききたいという意見が多くありました。その中でも、親と先生が共通の認識を持つ場を設けたいという意見がありました。例えば一般的な教科について、学校で教えることは親もちゃんと理解できているようにして学校任せにしないということなどです。親が子どもに説明できるように認識を持てているということや、道徳・マナーという点で、今の道徳は一括りにできないくらい複雑になっていますが、そういった今の道徳について、親と先生が一緒になって勉強して共通の認識を持てるようにしたいということです。もっと言えば、例えば自分の子どもが学校で悪態をついているとか、他の子に暴力を振るっているようなことがあれば、言ってほしいと思います。ただいまの学校の先生は、非常に多方面に気を使われて喋られていると思うので、簡単に言いたいことは言えないと思います。しかしながら、保護者と先生がしっかりと共通の認識を持って、言って良いこと、ダメなことを学ぶ場があれば、そうい

ったことは未然に防げていくのではないかなと思います。このような意見が挙げられました。

○ 会長

様々な視点からご意見をいただき、ありがとうございます。各グループからの報告について、補足の意見を述べたい方がおられましたらご意見願います。ないようですので、これで意見交換の報告については以上とします。

○ 会長

続きまして、次第5「第4回検討会議の整理」に移ります。委員の意見を整理し、事務局から報告願います。

○ 事務局

熱心にご協議いただきありがとうございます。

まず地域と学校のつながりについて、ご意見をいただきました。学校と地域が話をすることができる拠点と言いますか、相談できる場を設けるといことが、地域と連携したスムーズな議論、学校や地域の運営に繋がるのではないかとということで意見があったように思います。また、参加される方がどうしても固定されてしまうという問題が挙げられていました。参加する人はずっと参加する形となり、負担がかかることもありますので、組織立ててうまく割り振りをしながら、負担が平等な形で運営できるような地域との繋がりが大切ではないかという意見が出ておりました。

次に、家庭と学校との適切な関わりというところで、PTAの活動や、西脇小学校の例で「おやじの会」というものがありますが、やはり、先生と地域の保護者の方が関わる機会というのが大事になるように思います。できるだけ子どもの動きが分かるように、いろいろな行事に参加していただき、学校の先生と連携をとっていただくこと、先生方も地域の方々・保護者の方々も、お互いが意識して関わっていただくような場を設けるといこと、地域の方も学校だけに任せるのではなく、保護者の方もいろいろなところで学校の動きに意識を持ちながら関わっていくことなどの意見があったように思います。

それから双方向でのコミュニケーションという面では、IT機器が入ってきておりますので、是非とも活用して連携を取り合えるような体制づくりも大切になるというような意見もあったと思います。

また、保護者と先生のコミュニケーションを取る場ということで、お互

いが共通認識を持てるような場をそれぞれで持ち、学校の様子を知ったりする中で、地域との連携・繋がりを持っていくような形で進めたいというような意見があったと思います。以上で報告を終わります。

○ 会長

副会長から本日の内容や今後の方向付け等を含めて、コメントをお願いします。

○ 副会長

各グループのご議論お疲れ様でございました。学校と家庭の連携や、学校と地域との連携の話をしていただいたわけですが、大事なのは何のためにやるのかということです。これを非常に大事にしてほしいと、聞きながら思った次第です。学校学習環境規模適正化という会議の目的そのものにも関わってきますが、教育を良くするための教育振興が一つの目的となると思います。しかし、教育振興だけが目的ではないので、このような会議をしているように思います。

冒頭の資料等にもあったとおり、西脇市の子ども数は減っています。減っていく中でも、それに耐えて良い学習環境が提供できれば良いということ、語弊を恐れずに言うと撤退戦のようなことだけになってしまいます。そのうえでもっと考えなければならないことは、地域の活性化や地域振興等が挙げられます。学校の学習環境が良くなれば良いというだけではなくて、一方で地域が元気にならないといけません。あわよくば人口が増えるようなことが起きれば良いというような話だと思います。だとすると、学校と地域の連携や、学校と家庭の連携の話をするときには、教育をどう良くしていこうかという話と、地域をどう元気にしていこうかという話を両方考える必要があります。それを行うためのちょうど良い接点、この連携の話だと思います。ですので、片方でこの仕組みを使うということがあれば、もう片方として、この仕組みを使って地域をどう元気にするのかという視点をぜひ持つておかないといけないと思います。教育を良くするだけを考えて、どの仕組みを使おうという議論にはまりがちになってしまいますが、それはもったいないように感じますので、そういったことを総論として感じた次第です。

また、いずれのグループからもコミュニケーションというキーワードが出ていたかと思いますが、非常に大事なことです。なぜ大事かといいますと、再び語弊を恐れずに言いますと、そもそも地域の方と保護者の方と学校教職員の考えることが一致するとは限らないわけです。

兵庫県内ではないのですが、私が以前関わった地域の例を挙げて話をしますと、とある漁村で、子どもは勉強してくれるなといった地域の方の本音がポロっと出たことがありました。学歴をつけると漁業を継ぐ奴がいなくなってしまう、みんな出ていってしまうので、この地域を残すためには子どもたちは勉強しなくて良い、むしろ、目上の人のごことは聞くものであるという価値観をしっかりと教え込んでほしいというような内容でした。こういった意見は、現在の学校教育の価値観とは違うわけですね。これは非常に極端な例になりますが、では一方で、地域の保護者がそういうことを考えるかということ、恐らく違うことも考えるわけです。そして、学校の人たちは必ずしもその地域に生まれ育っているわけではないですから、いわゆる学校として共通する価値観を持ってくる。ですので、地域・保護者・学校教職員の3つの意見が自然に一致するとはあまり思わない方が良いと思います。そのことを考えると、コミュニケーションが大事になります。先ほどの例は非常に大きい話になりましたが、細かいところでもやはり意向のズレということがたくさん出てくるわけです。

私は会長と共に学校に来るクレームについての研究や情報収集を行ったこともあります。やはりコミュニケーション不足から起こるケースが多いです。よかれと思って一言言いたいけれども、言うようなチャンネルがなく、溜まりに溜まった結果、電話をして怒鳴るといったようなケースがあります。もっと早い段階の軽いうちにできていたら、電話して爆発しなくてもよかったのに、そのようになってしまうケースというのが、学校に来るクレームの話としてはよくあります。もとは悪いことではなくてよかれと思って言いたいことがあるのですが、言うチャンネルやコミュニケーション回路がないので、溜まってくる訳です。

「コミュニティ・スクール」の話をしますと、学校関係者の方のありがちな誤解として、学校に意見がいっぱい来るようにすれば日常的に学校に要望がたくさん来るようになり、学校がすごく大変なことになるのではないかというような危惧をされる方が結構いらっしゃいます。しかし、それよりも大きなリスクが減ると考えたほうが良いように思います。コミュニケーションが進みますし、むしろ日常的にコミュニケーションする場をとることが大事なわけです。私が関わっていた「コミュニティ・スクール」のことで例を挙げますと、登下校の安全管理をしていた地域の方から、「特定の場所に子どもがたまっていて危ないから学校で指導してくれませんか」というような話が学校に入り、「学校側で指導に行きます」というような仕組みがないと、「店の前に子どもがずっとたまっていて困っている」等の爆発したクレームが寄せられるようなことになってしまったりし

ます。そうならないためには、やはり日常的にやりとりがある環境ということが非常に大事で、保護者さんとの関係でも似たようなことがやはり出てきます。そういった意味ではコミュニケーションは非常に大事です。

また、地域と連携すると学校の教育活動の質が良くなるのが、利点として挙がっていたと思いますが、こちらも非常に大事だと思います。「コミュニティ・スクール」だと繋がる相手が個別の先生にならないということが利点になります。先生個人ベースで連携していると、先生が異動になった際に連携が終わってしまう可能性があります。「コミュニティ・スクール」では窓口が先生個人ではなくて、学校運営協議会や地域共同本部等の窓口ができあがるので、継続しやすいです。せっかくできた繋がりを上手に生かして教育活動がしやすくなるため、そういった意味でも非常に良いです。しかし、よく繋がるからこそ、最初の話に戻りますが、コミュニケーションが非常に大事になってきます。事前に何も説明がないまま「とりあえず来てくれ」、「手を貸してくれ」ということだと、あまりやる気がなくなってしまいます。「こういった学校活動を行いたい」、「子どもにこういった力をつけさせたいから助けてほしい」と話をするとスムーズになります。言い方を変えると、学校の先生方にとっては今まであまりやらなくてもできていたことを、あえてやらなければならないようになるので、コミュニケーションをしっかりとりましょうとか説明をしましょうという場面がたくさん出てくることになります。そういった意味では、やはりそれぞれのコミュニケーションが必要になってくるという話だと思います。各グループでコミュニケーションが、キーワードに出ていたことは、非常に前向きに捉えて良い話であると思いました。

最後に、地域振興も大事だという話をさせてもらいました。「コミュニティ・スクール」のような学校と、地域の連携が続くには、何が重要なかを考えてみるとわかりやすいと思います。まず、楽しくないとだめということです。加えて、過度に重たくないことも大事です。そして、手伝うと感謝されるということも大事です。こういった要素が揃っていることが非常に大事なことだと思います。やってみたいけど、ものすごく活動が重たいという場合は、足が遠のきますし、せっかくやってあげたのに感謝の言葉の一言もないというのは、あんまりだという気持ちにもなってしまわないかと思います。最初は子どものため、学校のためとして行っても、やはりやっていること自体に楽しみを見出さなければならぬかなかなか進まないこともあります。そういった意味では、どうすれば続く仕組みができるかというようなことを、この後の作り込みの時に考えていたほうが良いように思います。こういった会議の場だと、子どものためや学

校のためという話をすると、美しく良い話に映るのですが、やはり他にいろいろな生活があって、プラスアルファとして学校に関わろうかなという話をする以上は、学校に関わってよかった、楽しかったということがないと、意義や価値・使命感のみでは、なかなか進まないようになるので、大事なことのように思います。

活動の軽さの意味でいうと、今度は保護者さんとの連携の話でPTAがよく出てきますが、PTAのあり方そのものを考え直した方が良い場面に来ているような気がしています。現在、共働きの世帯と専業主婦の世帯の割合は7対3ぐらいとなっています。1990年代には共働き世帯の数と専業主婦の割合が逆転しました。そう考えると、現在のPTAのあり方というのは、どうもその前の仕組みを強く引きずりすぎているように思います。専業主婦以外にどうすればコミットできるのかというような活動時間や負荷の設定が多いです。地域連携や保護者との連携について、共働き世帯が多いことを考えると、違う活動の形をとっていたほうが良いように思います。また、地域の方に何かをお願いするにしても、そういった事情を踏まえて行うべきだと思います。こういった会議をすると、どうしてもあるべき家庭の姿についての話になるのですが、20年前、30年前の感覚でのあるべき家庭の姿はなかなか難しいとなったときに、では地域の方にどうフォローをしてもらおうか、学校とどういう棲み分けをしようかというようなことで発想を始めたほうが、恐らく良いような気がしています。

議論を聞いていて、なぜ地域と学校が連携しないといけないのかといったそもそも論の疑義が出ずに、連携を行うことを前提として議論が進んでいたのは非常に良かったように思います。なんとなく連携をするものだと思う前に、こういった良さがあるとか、こういった環境の下に議論が出ているというのが押さえてあると、この後の話も少し進みやすくなるように思いました。

○ 会長

先ほどの副会長からの意見も含めて、次回の検討会議において、今回の意見交換の整理を事務局より書面でご報告いただきたく思います。

○ 会長

続きまして、次第6「その他」に移ります。事務局より説明願います。

○ 事務局

資料7をご覧ください。次年度以降の今後の推進のスケジュールという

ことで、修正案を挙げさせていただいています。以前から表のお示しをさせていただいていましたが、本日で第4回目の検討会議を終了させていただきました。この4回の総論をまとめさせていただいて、令和3年度に向けて議論を深めていくところでございます。表の中段に令和3年度の推進スケジュールを挙げております。

まず検討会議につきまして、5月に5回目を開いた後、7月・8月・10月・12月と、5回開催を予定する中で、今後の5月以降に適正な学級の規模や学校の規模について、7月には適正な学校の配置というようなところで、これまで議論いただいたものを踏まえていただいて、議論を深めていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

その下には研修と視察について記載しております。1月に姫路へ小中連携を行っている学校の視察を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの関係で延期しておりました。5月あたりで再度調整をさせていただいておりますので、実施をしたいと思いますので、皆さんにご案内させていただきますので、ご参加いただければと思っております。もし委員の皆様で、気になる学校や見学視察したい学校がありましたら、言っていただければ、視察するように調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

その下には地域会議について記載しております。第4回目の検討会議をさせていただきましたので、4月以降随時、地域の皆さんに今回の検討内容を報告するとともに、皆さんの意見を集約していただいて、5回目以降の検討会議にご意見をいただければと思っております。会議が続きますけれどもどうぞよろしくお願いいたします。

一番下の段に地域説明について記載しております。もし地域で学習環境規模適正化について勉強会を希望される地域がございましたら、出張で説明させていただきますので、遠慮なく言っていただければと思っております。

また、去年の秋ごろに市民全体に向けたフォーラムを予定していたのですが、こちらも新型コロナウイルスの影響で、開催できておりませんでした。今年は開催したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。説明は以上です。

○ 会長

ありがとうございました。令和3年度はよりハードなスケジュールとなっていきます。日程等ご覧いただきまして、引き続きよろしくお願いいたします。質問やご意見等ある方はいらっしゃいますでしょうか。

○ 委員

来年度から、本格的な答申に向けてのまとめに入っていくのだろうと思いますが、学校の規模や統廃合を含めた検討を行うにあたっては、金銭面の問題も避けては通れない話なのだと思います。理想的な規模や学習環境を考えたとしても、多額なお金がかかると実現できないように思います。そのあたりをセットとして考えなければ、責任ある答申ができないように思っていますので、次回には金額的な見通しや、現状かかっている費用等も合わせて話をさせていただきたく思っていますので、よろしく願いいたします。

○ 事務局

費用面についても大事になってくると思いますので、例えば、一校にかかっている費用等、金額的な面をお示しさせていただきます

○ 会長

できるだけ財政的な面の情報について、お示しをいただきたいという要望だったと思います。県費負担教職員の人件費や、市費負担等のいろいろな区分がありますので、そのあたり可能な範囲でということになるかと思えます。

事務局よろしく申し上げます。

○ 会長

本日の審議事項につきましては、全て終了いたしました。最後まで熱心なご協議をありがとうございました。委員の皆様のご協力により、議事をスムーズに進行できましたことにお礼を申し上げます。進行を事務局にお返しします。

○ 事務局

第5回検討会議は、令和3年5月28日（金）午後7時から、ドウジウムでの開催を予定しています。4月中旬に、ご案内を差し上げますので、お忙しいところ申し訳ございませんが、ご出席を賜りますようよろしくお願いいたします。第4回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議にて予定しておりまして内容は全て終了いたしました。

○ 事務局

閉会に際し、西脇市学習環境規模適正化推進室長があいさつを申し上げます

ます。

○ 学習環境規模適正化推進室長

長時間にわたり、熱心にご協議いただき誠にありがとうございました。

次回からは、核心部に触れていくような形で議論を深めていきたいと思っています。適正な学習の規模や学校の規模について、ご審議いただく予定になります。委員の皆さんにおかれましては、地域や周りの人の意見を把握していただき、この場でできるだけ持ち寄っていただき、忌憚のない意見を聞きながら方針をまとめていただきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

○ 事務局

閉会